



平成16年3月25日

各位

会社名 株式会社メディビック
代表者名 代表取締役社長 橋本 康弘
(コード番号2369:東証マザーズ)
問合せ先 執行役員管理本部長 太田雅敏
(Tel: 03 - 5510 - 2407)

リンフォテックとメディビックが「ゲノム情報を活用した免疫系細胞治療における効率的治療のための新技術」を共同開発することで合意

当社は、株式会社リンフォテック（東京都文京区、代表取締役 関根暉彬、以下「リンフォテック」という。）との間で、免疫系細胞治療において効率的な治療を行うための新技術の共同開発を開始することを合意し、平成16年3月25日開催の取締役会議で決定いたしましたのでお知らせいたします。

リンフォテックは、ガン及びウイルス感染症の治療、移植医療などにおける免疫系細胞治療技術の応用を主体とする先端医療の研究開発型バイオベンチャー企業です。リンフォテックは創立以来、自社で有する細胞培養に関する特許技術を土台に、化学療法では十分な治療や管理ができないガンやウイルス感染症における EBM（Evidence-based Medicine）を基本とした新規細胞医薬品開発を進めてきました。同社は、細胞治療研究分野においては国内でも先端的な位置にあり、ナショナルプロジェクトに参加するなど、アカデミック分野とも積極的な研究活動を展開しています。更に細胞治療に関係する多数の特許をワールドワイドに出願しており、出願した特許の一部は既に米国において成立しています。

一方当社は、バイオインフォマティクス技術および医療分野の研究開発コンサルタント事業の展開をおこなってきましたが、その中でも、とりわけ近年注目を集めている遺伝子発現解析データ処理技術に関して、自社技術開発に注力してまいりました。その技術開発の成果は、先端医療を用いた治療対象となる人たちの遺伝子発現解析をおこなうことによる細胞治療分野における EBM の確立により、医療の有効性の向上や副作用の発症を最小限

に抑えることができると期待されています。

この度、リンフォテックの細胞治療研究開発において、当社の遺伝子発現データ解析技術を応用することで、先端医療技術を用いた治療効果の評価技術において、両者が共同で研究開発を着手することになりました。両社の代表取締役社長が、ともに免疫学における深い学識を有するという共通専門性を尊重し、特に免疫系細胞治療という観点に絞ったテーマを選択しました。

当社は、リンフォテックが今後進めるガンやウイルス感染症などの治療技術に関するEBM治療評価システムの確立を目指した遺伝子発現データ解析技術の共同研究の実施、臨床開発の一部を担当するとともに、申請開発コンサルティングのソフト面での支援を行うことにより、リンフォテックの「EBM テーラーメイド細胞治療」の日本社会への普及に努めます。また当社は、本共同開発により得られる成果に基づき、遺伝子発現解析に関する新しいサービスや製品の開発への展開を目指してまいります。

なお、本共同開発の合意による平成16年12月期（平成16年1月1日～平成16年12月31日）の当社業績見通しに与える影響は現段階では未定ですので、現時点での修正などはございません。

<リンフォテック会社概要>

株式会社リンフォテック

本社：東京都文京区白山五丁目26番9号

代表取締役社長：関根暉彬

設立：平成11年4月

資本金：511百万円（平成16年2月末現在）

従業員数：37名（平成16年2月末現在）

売上高：452百万円（平成15年3月期）

事業内容：細胞医薬品開発、医療支援など

<http://www.lymphotec.co.jp>

【参考】

免疫系細胞治療＝免疫にかかわっている細胞を活性化させることによって自己免疫機能を正常化する治療法。

EBM (Evidence-based Medicine)＝経験に基づく医療ではなく、科学的な臨床研究で入手したデータに基づいてその治療法の効果と安全性が確認されている医療。